

中央大学学員会 中大技術士会支部 ニュースレターvol.64

会員の皆様へ

「アメリカに幽霊が出る、強権主義という幽霊である。」

今全世界は自由主義社会が普段の努力によって育んできた自由貿易・三権分立・大学の自治・社会の多様性の尊重等という共通の価値観を破壊するリーダーの出現により混乱に陥っている。他国の主権を蔑ろにし、国際法に違反し隣国に侵略した強権主義国家のリーダーを彷彿とさせる、まさにプチ・プーチンの出現である。YES マンばかりの忠犬で回りを固め反対意見を唱える者を遠ざけていけば、いずれ気が付けば「裸の大様」に陥ることは世の必定です。今後の世界の最重要課題の一つである地球環境問題に対しても、科学的知見には目もくれず、多くのフェイクを臆面もなく垂れ流し続けています。自国の短期的な利益（結果的には自国の不利益になるはずですが）及びポピュリズムに通ずる選挙における岩盤支持層のみを考え（さすがに最近では支持率が50%を切ったようであり、アメリカの良識を信じたいと思います。）、世界の将来の利益を全く顧みない社会を分断するモンスターの出現です。（ここまでは全くの私見です。）

このような不測の事態に対して私達技術者としての一体何ができるのでしょうか？ 言わずもがなではありますが、甚だ微力ながら人間社会のためにあくまでも科学的根拠に基づいて地道に業務に対応し社会に貢献する事ではないでしょうか？

神宮の銀杏並木が全数健全であるという科学的根拠を全く無視した虚偽の環境アセスメントのもとに、都市再開発という商業主義のために、中央大学研究開発機構の石川教授のご努力にも拘らず、私たちの貴重なグリーンインフラの破壊が始まりました。誠に残念な限りです。石川先生がこの度著された岩波新書の「緑地と文化」が発行されました。神宮外苑の樹木の伐採についても持続可能な社会の根幹に関わる事態であると、問題の本質に迫っております。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ (<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただきご投稿ください。

内 容	ページ
巻頭言 ■ 「技術士の魅力と行動する知性」 副会長 黒澤 之（建設、衛生工学、応用理学、環境、総合技術監理部門）	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会活動報告	3 ページ
■ 大学支援部会活動報告	3 ページ
■ 広報部会活動報告	5 ページ
活動計画	5 ページ
■ 企画部会活動計画	5 ページ
■ リレーエッセイ 「後期高齢者を目前にして」： 村上一永さん（情報工学・建設部門）	6 ページ
■ エッセイ 「新1号館が完成しました!!」： 小林 進さん（情報工学、総合技術監理部門）	8 ページ
■ マネジメントの基礎シリーズ（第5回）「原価計算の基礎」： 山下三雄さん（建設・総合技術監理部門）	10 ページ

■ 「技術士の魅力と行動する知性」:

中大技術士会副会長 黒澤 之（建設、衛生工学、応用理学、環境、総合技術監理部門）

新年度を迎え新たなスタートを切った方は期待と不安が交錯しているのではないのでしょうか。異動がない方も組織や社会の中で変化を感じ取るものです。このように年度初めは日常活動に変化をもたらすものです。

さて、我が国の技術士人口はついに10万人を超えました。とは言え、実際に活動している方の実数は不明です。政府も実数を把握すべく登録制度見直しを議論してはいるようですが、これは名称独占資格たる技術士だからこそその現象でもあります。

業務独占資格ではないため、企業内技術士の方からはよく「取得はしたもののメリットを感じない。」という言葉が出ます。おそらく企業で活動しているうちはそんなのでしょう。では・・・所属企業の肩書きを外してみましょう。どんな肩書きが残りますか？地域活動や趣味などでの肩書きが残るかも知れません。そして学歴・学位が残るでしょう。もし技術士資格があればそれが公の肩書きとして残ります。

技術士の名称を生かすことでたとえば企業の枠を外れた活動も可能となります。そして「メリットを感じない期間」に積み上げた研鑽の記録（CPD）は技術士の実績として年々積み上がり、後年になって価値を発揮しはじめます。その価値を享受するのは企業ではなく本人自身です。つまり技術士は長期のライフプランを支える国家資格だという訳です。同様に第一次試験合格者には「国際水準に沿った一定の専門知識と技術者としての適性を有した人物である」ことが証明される訳です。

こうしたことを念頭に入れ、中大技術士会は学生諸氏に対し大学と連携して学生諸氏への様々な支援を行っています。具体的には理工学部・総合理工学部の科目「科学技術と倫理」にゲストスピーカーを、理工学部都市環境学科の科目「キャリアデザインと倫理」に兼任講師を派遣しており、技術者倫理を基軸とした教務支援に努めています。また、在学中の第一次試験受験支援も展開しています。昨年度は6月の平日複数回に授業時間の一部をいただいて第一次試験受験申込み案内を配布、10月19日（土）に模擬試験と講義を行いました（55人が参加）。そして11月24日（日）の本試験を経て、見事に現役学生78人が合格しました。合格者から希望者を募り、本年3月29日（土）に理工学部長表彰を執り行い、年度末を有終の美でしめくくりました。

今回の第一次試験合格者数は大学別でみると全国で2番目の人数（首位は94人）です。これは果敢に挑戦された学生諸氏の努力の成果ですが、理工学部・総合理工学部と中大技術士会の連携も陰で支えたのではないかと自負するところです。

技術士をめざし、技術士として活動することは成長の機会を得ます。困難に直面してもそれを乗り越える力を育み、自身の内なる強さを見いだします。大学、学生及び出身者の皆さん！これからも支え合うことで“行動する知性”を開花していきましょう。



活動報告

■ 幹事会報告

行事名	開催日程	活動概要
2024年度 第7回幹事会 (WEB会議)	2025年 2月28日(金) 18:30~19:45	【各部会報告】 ・ 総務部会報告 ① 大技連(大学技術士会連絡協議会)の年次総会は、最終的に3/22(土)14:30~16:30のオンライン会議に変更になりました。 ・ 企画部会報告 ① 2025/令和7年度の中大技術士会の開催行事を企画していく。 ・ 広報部会報告 ① 2025年度のニュースレターの新年号 Vol.63が発行されました。 ・ 大学支援部会報告 ① 2025/3/29(土)13:00~14:30 技術士第一次試験の合格者歓迎会/理工学部長表彰式の開催に向けた最終確認&準備(会場予約、講演会の手配、賞状や記念品の準備など) 【その他】 ・ グリーンインフラ研究会 → 次回の開催に向けて石川先生と協議する。 ・ テクノロジー懇談会 →次回の開催を企画していく。

■ 大学支援部会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
合格者祝賀会 (ハイブリッド：対面＋WEB会議)	2025年3月29日(土) 13:00~14:30 後楽園キャンパス 5号館 3階 5333教室	1. 理工学部長挨拶 中央大学 理工学部長 梅田 和昇 様 2. 講演：「「技術士」を目指そう！」 講師：眞先 正人様 公益社団法人 日本技術士会 専務理事、事務局長 3. 令和6年度 技術士第一次試験合格者表彰：この試験では中央大学から78名の学生が合格しました。合格者に祝賀会参加の呼びかけを行ったところ25名が参加しました。参加者には賞状と記念品(ロゴ入り水筒)が授与されています。[プレゼント] 賞状：理工学部長 梅田 和昇 様 記念品：中大技術士会 坂林会長から 授与されました。 4. 記念写真撮影：Web参加者を含めて記念撮影を行いました。

[支部だより](#)

2024年度の技術士第一次試験の全国大学別の合格者数で第2位に躍進！！

中大技術士会 令和6(2024)年11月24日(日)に実施された国家資格の技術士第一次試験の合格者が公表されました。全国で約800校の大学別の在学生の合格者数で、我が中央

大学は、昨年度の第3位から第2位に順位を上げて第1位を狙える位置に来ました。

中央大学は、過去に、2014年から2016年まで3年連続で大学別の在学生の合格者数で全国第1位を獲得した特筆すべき実績があります。この伝統を引き継ぎ、継続的に支援体制を強化してきました。

他大学も中央大学を見習い奮起して大学を挙げて在学中の合格を目指しています。中央大学も切磋琢磨して本年度こそは念願の第1位を取り戻したいです。

技術士第二次試験の大学別の中央大学卒の合格者数は8人(200人申込み)の53位です。技術士第二次試験は実務経験が必要な高難度の試験であり、第一次試験と比較して合格率が大幅に低くなるのが特徴です。このことから、在学中に第一次試験に合格しておくことの重要性がわかります。



中大技術士会調べ (2024年度)

在學生		
No	大学	合格者数
1	****	94
2	中央大学	78
3	****	64
3	****	53
5	****	47

3/29(土)の技術士第一試験合格者の表彰式&祝賀会

技術士とは、機械部門・電気電子部門・建設部門など 21 技術分野の最高峰の技術者資格であり、技術士の英語名称は「Professional Engineer」になります。国内外で高い評価を受ける資格であり、特に専門的な技術分野でのキャリア形成において大きなアドバンテージとなります。

令和7（2025）年3月29日(土)に後楽園キャンパスで梅田理工学部長と日本技術士会の眞先専務理事を招いて、技術士第一次試験に合格した学生への表彰式と祝賀会が開催されました。合格者たちは晴れやかな表情で集まり、今後のキャリアに向けた決意を新たにしました。

今後、社会人になり色々な経験や研鑽を積んで上位の技術士第二次試験に合格して「技術士補」から「技術士」を目指して下さい。おめでとう！

（白門オンラインへの投稿記事）

■ 広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	・新規入会者の登録などメーリングリストのメンテナンス
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.64の作成、発行
HP新規掲載	・ニュースレターvol.64の掲載 ・電気電子情報通信工学科小林一哉教授最終講義の案内掲載
その他	・3月29日に開催した一次試験合格者祝賀会で中大技術士会への入会を勧めたところ、現役学生の入会が増えています。
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiwase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談など、何でも構いません。皆さんからの積極的な応募をお待ちします。 ③ 会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「 <u>趣味</u> 」や「 <u>近況報告</u> 」を共通テーマとしたリレーエッセイを(Vol.36)より開始しました。執筆依頼がありましたら、躊躇せずに投稿をお願いします。 また、リレーエッセイの投稿をご希望の方は遠慮無く、toiwase@chuo-u-pej.org まで、お問い合わせください。意外な繋がりが生まれるかも知れません。

活動計画

■ 企画部会活動計画

行事	日程	内容
中大技術士会 R7 第1回講演会 (定時総会時の特別講演会として開催)	未定	定時総会の日程・開催会場を含めて検討中

「後期高齢者を目前にして」:

村上一永さん（情報工学部門 建設部門）

1. 自己紹介

理工学部数学科を 1973 年に卒業した村上一永です。入学した 1969 年はまだ学園闘争の激しい時代で東京大学の入試が行われなかった年です。入学はしたものの入学式はなく、毎日ロックアウトの日々で、キャンパスに入れられない状態が続きます。夏休みになり、やっと自主授業という名の講義らしきものが始まりました。その後も試験が近づくとロックアウトされ、試験の代わりにレポート提出となるが多かったように思います。おかげで無事卒業できました。



2. 貯水池水質解析

当時、数学科を卒業した者の進路としては大きく 2 つの道がありました。教職と情報技術者です。まだ IT という用語など一般的ではありませんでした。私は大手コンピュータメーカーの入社試験に落ちた後、電力会社の情報関連会社に入社できました。この会社では人事、経理システムなどを扱う事務計算部門と、電気、土木の科学技術計算部門がありました。配属されたのは土木関係でしたが、担当したのは親会社の仕事ではなく、電力会社共同の研究機関からの仕事でした。ダム貯水池の水温、濁度、富栄養化などをコンピュータシミュレーションして予測する貯水池水質解析業務です。時代は大型揚水発電所建設真っ盛りで、日本の 9 電力会社すべての水力発電に関する貯水池水質解析を実施することになりました。貯水池現地への出張もありましたが、当然ながらどこも山深い出張先ばかりで、昔から車酔いする体質の私は苦勞しました。

3. 地熱貯留層解析

オイルショックを経て通産省の外郭団体として新エネルギー総合開発機構（NEDO）が設立されました。新エネのひとつとして地熱がありますが、当時、地下の熱流体を精度よく予測する方法はありませんでした。しかし海外では石油の手法を応用した地熱貯留層工学が確立されつつありました。そこで NEDO では技術者を海外へ派遣し、技術移転することを考えました。そして親会社の 1 名と私とで NEDO へ出向し、米国へ 3 か月間出張することになりました。初めての海外経験でもあり、生活、仕事含めすべてが新しい経験でした。出張先はサンディエゴ近くの民間企業で、担当の技術者はインド系、ドイツ系の 2 人です。この 2 人は米国でも地熱貯留層工学では先端的な研究者として知られており、突然押しかけたにもかかわらず公私ともに暖かく受け入れてもらい、帰国した後も交流が続きました。私としてはまったく新しい分野でしたが少しは技術を身に着けることができました。帰国後は出向先、親会社も含め地熱分野の仕事にも従事することになりました。

4. 資格

仕事の傍ら情報処理技術者試験に挑戦しました。第 1 種試験に合格した後、何回かのチャレンジで特種試験に合格。この経験で論文執筆のこつを掴んだので、次は技術士と思い情報工学部門を受験すると 1 回で合格。情報工学部門の祝賀会に出席したところ、某ゼネコンの土木屋さんが建設部門に続いて 2 部門目の合格と聞き、それでは私も同様にと思い、翌年建設部門を受験し運よく合格しました。

5. 趣味

学生時代まともに授業が始まらなかったこともあり、映画を見まくりました。名画座系を中心に今の国立映画アーカイブにも通い、洋邦問わず、映画創世記から現代まで見ました。その甲斐あってか、映画検定3級に合格しました。

会社に入ってから山登りも始めました。国内3千m峰をすべて踏破しようとしたのですが、結局荒川三山、奥穂、乗鞍を残してしまいました。走って下山するのが楽しかったのですが、ダメージの蓄積が最近になって膝関節症、股関節症となって表れています。

会社ではランナーズを設立し、皇居一周マラソン大会も開催していました。このノウハウを活かし、出向先でもランナーズを作り、皇居一周マラソンを開催しました。一度フルマラソンを走りたかったのですが、椎間板ヘルニアになったため断念しています。

映画検定合格以後、検定受験が一種の趣味となり、語彙・読解力検定準1級、ロック検定3級、美術検定4級に合格、日経テスト623点、家事検定2つ星も取得しました。

退職してから現在まで続けているものに、コーラスサークル活動があります。地域の混声コーラスサークルで、現在の年齢では若手なので、まだまだ続けられると思っています。

6. 終わりに

昨年の話になりますが、家内の個人事業を法人化することになり、一般社団法人を立ち上げました。家内が理事長、私が理事の2名だけの法人です。内容は視覚障害者のための点字楽譜翻訳ソフト開発と点訳サービスです。ほとんどボランティアですが、この法人を軌道に乗せることが目下の目標です。



数学科の高尾山ハイキング（中央が筆者）

次号はこの度大学技術士連絡協議会担当に就任された加藤幹事にバトンタッチいたします。

エッセイ

■ 「新1号館が完成しました!!」： 小林 進さん（情報工学、総合技術監理部門）

今年、1月に新1号館が竣工しました。これに伴い、旧1号館を使用している物理学科と電気電子情報通信工学科の研究室は2月～3月にかけて新1号館に移転し、4月から新1号館で研究、教育を行っています。旧1号館は、新1号館の建設した奥村組の事務所が撤去された後に解体されると聞いていますので、もう暫く今の姿を見ることができると思います。旧1号館の跡地は、解体後、整備されますので使用できるのは2年後位かと思います。

さて、新1号館に入る機会がありましたので、新1号館の様子を写真で紹介します。中大技術士会にとって一番関心がある（私だけかも？）のは、5階のラウンジです。ラウンジから見る景色は最高です。目の前には東京ドーム、小石川後樂園、東京スカイツリーが見えます。利用方法が決まれば、中大技術士会の総会、講演会、懇親会をここでやりたいと思っています。

また、今年の10月26日（土）には理工ホームカミングデーが計画されています。ここでは、建設を担当した奥村組の社長に新1号館について話して頂くことで、理工学部長が交渉していると聞いています。恐らく、ラウンジで懇親会なども企画されると思いますので、多くの方の参加をお願いします。詳細が判り次第、メールやホームページ等でお知らせします。



新1号館外観



新1号館入り口



1階 エレベータ



1階 案内



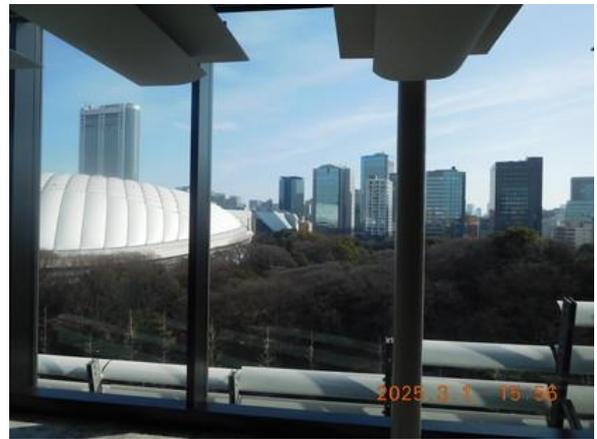
講義室



学生実験室



5階 ラウンジからの景色



5階 ラウンジからの景色



5階 ラウンジからの様子



5階 ラウンジからの様子

■ マネジメントの基礎シリーズ：第5回「原価計算の基礎」

山下三雄さん（建設・総合技術監理部門）

今回の「原価計算の基礎」は私の浅学のため、いささか表現にまとまりがなくわかりにくいように思います。今後もさらに勉強してブラッシュアップし機会があれば発表できればと考えております。

また、当初の計画では最終回として第6回「経営組織・人的資源管理（HRM）」を考えていましたが、誠に勝手ながら私の都合により（あまり中途半端なものはいかがなものかと思っています）とりあえず今回をもって最終回とさせていただきます。これまでの拙い文書のご愛読、誠にありがとうございました。今後は法律（特に知的財産法等）・経済・金融等のシリーズが有志の方々にバトンタッチできればいいなあと勝手に考えております。

URL：http://www.chuo-u-pej.org/katudou/newsletter/document/document_05.pdf



ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org

2023年9月号 中大技術士会 広報部会 発行

中大技術士会ホームページ：<http://www.chuo-u-pej.org/>